



環境を整え、時間をはぐくみ、人を育てる 男女共同参画推進室 活動紹介

“まゆだま”の愛称が浸透してきた男女共同参画推進室。どんなことをやっているの？という疑問にまとめてお答えするために改めて活動をご紹介します。

研究支援

- 研究活動支援制度による研究費補助
- 研究力アップ講座

啓発活動

- シンポジウムの開催
- 学生向け講義の実施
- ワーク・ライフ・バランス講座
- LGBT講座

交流

- 全学ランチミーティング
- 大学幹部と女性教員のランチミーティング
- まゆだまcafé
- まゆだまcafé倶楽部

情報発信

- ホームページ
- ニュースレター「まゆだま通信」
- まゆだま情報Clip

相談

- 両立支援アドバイザーによる相談
(火)荒牧 (水)昭和
(木)桐生 ※第3木曜除く
- コーディネーター相談
- メンター相談

支援

- センター入試時等の託児費用の補助
- ベビーシッター割引

ぐんまダイバーシティ推進地域ネットワーク設立 (2016.11.11)

群馬県内の13の高等教育機関が参加しています。

交流スペース まゆだま広場

荒牧：平日10～16時 教養教育GC棟1階112 (内線7134)
昭和：平日9～16時 附属病院1階アメニティモールそば(内線4144)
桐生：平日12～16時 総合研究棟5階リフレッシュルーム(内線1071)

- 育児、介護に関する資料の閲覧・配布
- 関連書籍の閲覧・貸出
- ランチ時間帯の休憩
- 会議等での利用
- 相談受付
- 子どもとの一時的な休憩 (ベビーベット有 ※託児はしていません)
- おむつ換え、授乳、搾乳等での利用

ランチミーティング

まゆだまcafé・まゆだまcafé倶楽部

各キャンパスのまゆだま広場では、毎月ランチミーティングを開催しています。まゆだまcaféは全教職員・学生を対象とし、お昼を食べながら自由に交流することを目的としています。一方、まゆだまcafé倶楽部はテーマや対象者を限定したランチミーティングで、同じ境遇の人たちだからこそ話せる空間を提供しています。

荒牧：火曜日、昭和：水曜日、桐生：木曜日の開催です。皆様のご参加お待ちしております！

群馬大学のすべての教職員・学生の
ワーク・ライフ・バランスを応援しています！



2017.7

vol.14

■発行

国立大学法人群馬大学
男女共同参画推進室

〒371-8510
群馬県前橋市荒牧町4-2
TEL: 027-220-7146
FAX: 027-220-7143
mail:kyodo-sankaku@jimu.gunma-u.ac.jp
HP:http://kyodo-sankaku.gunma-u.ac.jp/

第4回 研究力アップ講座開催

平成29年2月22日に昭和キャンパスで、23日には桐生・太田キャンパスで第4回研究力アップ講座を開催しました。今回は物質・材料研究機構、経営企画部門広報室長の小林隆司氏を講師にお招きし、“考えたこともなかった「伝える技術」”と題したセミナーを行っていただきました。小林氏はNHKで18年間、「ためしてガッテン」等の科学番組制作に携わってこられたご経験もふまえ、人に何かを伝えるためには「聞く人の気持ちの流れ」を考慮することが大切であることを具体例や演習も交えてわかりやすく講義していただきました。番組制作でも使われる聴衆を引き込むテクニックを学ぶ貴重な機会となりました。昭和38名、桐生・太田64名、計102人の教職員・学生にご参加いただき、「とても面白く有益だった」「テレビ番組の見方が変わった」「聞く側の感情を意識することに気づかされた」「プレゼンや授業に早速取り入れたい」など大変ご好評でした。



昭和キャンパス



桐生キャンパス

大学幹部向けFDセミナー

「地域をリードし未来を拓く女性研究者を育てるために」を開催

本学は、第3期中期目標・中期計画期間中に女性研究者在籍比率20%の達成を目指しています。平成29年5月18日、教育研究評議会評議員向けのFDセミナーを開催し、学長を含め28名の大学幹部が参加し、宮崎大学理事・副学長(女性活躍・人材育成担当)、清花アテナ男女共同参画推進室長の伊達 紫先生を講師にお招きし、ご講演いただきました。



宮崎大学では平成20年度より女性研究者支援事業に着手し、学長のリーダーシップの下、継続した全学の取組として男女共同参画を8年間推進してきた歴史があります。伊達先生は、その中心的なリーダーとして、学内だけでなく地域を牽引し、平成22年「九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク(Q-wea)」を立ち上げ、現在12大学が加盟しています。また、昨年度ダイバーシティ実現環境イニシアティブ〔特色型〕に採択され、九州地域の女性理事・副学長からなる協議会を新たに立ち上げました。学内では、医学・工学系の女性教授の初の採用、教職員で実行委員会を組織する男女共同参画シンポジウムの連続開催、イクボスの養成等にも取り組んでいます。ユニークな意識啓発のための映像配信も行っています。<http://www.youtube.com/user/MyaohTV>

男女共同参画推進室 新室員紹介

平成28年度、29年度に新たに室員に加わったメンバーをご紹介します。総勢22名体制（事務職員6名含む）になりました。宜しくお願いいたします。



理工学府

若井 明彦

専門は土木工学。ドボジョ（近年急増する女性土木技術者の親しみをこめた愛称）の応援団長を自任しています。



大学教育センター

飯島 睦美

4月桜に心躍り、5月新緑に心洗われ、そして6月何色に巡り合えるのか楽しみにしています。学生さんも積極的で、楽しく授業しています。どうぞ宜しくお願いします。



重粒子線医学推進機構

吉田 由香里

まゆだまの支援をより充実したものができるよう微力ながらお手伝いさせていただきます。よろしくお願いいたします。よろしくお願ひ致します。



理工学府

山田 圭一

今年度より意識啓発WGの室員としてイベントの企画運営に携わっています。多くの方々に賛同して頂けるよう努力してまいります。



教育学部

山崎 法子

男女共同参画の室員として2年目を迎えました。女性がきらめく活動をめざし、従事してまいりたいと思います。



保健学研究科

恩幣 宏美

保健学研究科の恩幣宏美です。本学の男女共同参画の発展に寄与できるよう務めていきますので、よろしくお願い申し上げます。



教育学部

新藤 慶

男女共同参画の推進とともに、「男/女」の二分法を超えた性別の多様性にも配慮した環境づくりも重要だと感じています。よろしくお願い申し上げます。



医学系研究科

小和瀬 桂子

研究支援や、まゆだまスクール等大変お世話になっています。利用者としても男女共同参画推進に貢献できればと思っています。よろしくお願いいたします。

平成29年度 男女共同参画推進室室員

工藤 貴子	室長／理工学府教授	新藤 慶	教育学部准教授
永井 弥生	副室長／医学系研究科准教授	山崎 法子	教育学部准教授
長安 めぐみ	副室長／男女共同参画推進室講師	山田 圭一	理工学府准教授
嶋田 淳子	保健学研究科教授	小和瀬 桂子	医学系研究科講師
末松 美知子	社会情報学部教授	吉田 由香里	重粒子線医学推進機構助教
山延 健	理工学府教授	青山 文彦	副室長／総務部総務課長
若井 明彦	理工学府教授	高曾根 宏明	総務部人事労務課長
飯島 睦美	大学教育センター准教授	飯塚 秀司	昭和地区事務部総務課長
恩幣 宏美	保健学研究科准教授	中野 道明	研究推進部研究推進課長
小林 陽子	教育学部准教授	石田 滋夫	理工学部事務長
佐藤 美由紀	生体調節研究所准教授	上田 みづ穂	総務部総務課専門職員



田村附属病院長インタビュー ～男女共同参画を語る～

インタビューー 田村 遵一

理事（病院担当）・附属病院長

インタビュアー 本多 悦子

理事（学長特命担当）

長安 めぐみ

男女共同参画推進室副室長



病院における男女共同参画の現状

本多：よろしくお願いたします。最初に病院における男女共同参画の現状について、教えてください。

田村：病院は他の学部と違って、特殊な面があると思います。他の学部は事務系と教員が主だと思いますが、病院は医療職が多いですね。例えば看護師は歴史的に断然女性が多い職業です。医師は男性が多い。ただ、最近では、医学部の教授は全員男性なのですが、准教授以下は女性も多くなりつつあります。看護職も男性が増えており、看護師長クラスも何人かおられます。そういう意味で、同じ立場の共同参画というのが少しずつ進んできていると思います。これからは意思決定するところに、具体的には「教授」ですね、女性が是非入って欲しいと思っています。

医師としての妻との関係から



本多：男女共同参画についてのエピソードとかありましたら…。

田村：実は、自分の妻も医師をしております、実家が近くなので、子どもを見てもらったりしていました。患者さんの身になって考えるのは、私より家内の方がずっと強いですね。女性は身近なところに気を配って子どもや患者さんをしっかり

みる、というのは、役割というよりは自然発生的能力なのかと思います。

長安：親身になってくれる良い先生であるという所でしょうか。

田村：でも、概して、女性は結構深刻になりすぎてしまうこともありますね。患者さんとトラブルになって、自分が悪かったのかなとずっと考えてしまうこともあるようで。その辺は、女性もあるときは少し無理をしてでも、客観的に観るようにしないと自分が大変になってしまうのかなと思います。

長安：そういう判断には、経験が必要ですよね。

田村：女性でまじめな人ほど、深刻にとらえている感じがしますので、そう考えると、大変なというか、様々な場を経験していただいた方が良いかと思います。それもあるので、なるべく女性に可能な限り委員会に出てもらうように進めています。現在、マネージャークラス、いわゆる医会長レベルだと、女性が3割くらいでしょうか。そういった人たちがこれから育ってくれると良いと思っています。

これからの男女共同参画についての思い

本多：それでは、最後の質問ですが、病院に限らず群馬大学として、これから男女共同参画はどのようなようになっていくと良いか思いがありましたら教えてください。

田村：「男女共同参画」と言わなくても済むようになって欲しいですね。逆に当然という感じで、ごく自然に男女が半々くらいで、良いところをお互いに認め合って活かしていこうという様になって欲しいですね。男女は全く同じでは無いわけですから、男性の視点と女性の視点の両方があった方があらゆる組織で良いと思います。それにはやっぱり、当たり前前として、女性の「～長」がでない。男性と女性が一緒に考えて、「ここは私が得意だからやる」といったように、お互いに納得して上手く分担できるようになりたいですね。

本多・長安：ありがとうございました。